職 務 経 歴 書

20XX年X月X日現在

氏名：○○　○○

■職務要約

　私は専門学校卒業後に総合病院（亜急性期、回復期、生活期）にX年、その後、総合病院（亜急性期、回復期、生活期）に現在まで勤め上げ、経験した病期は、超急性期～維持期（訪問リハビリなども含む）、までとすべての病期を経験しており、生活レベルが重度～自立まで多岐にわたるリハビリを展開することができます。これまでにスポーツ理学療法認定理学療法士、脳卒中認定理学療法士の資格も取得し、それぞれの研究や学会発表なども行ってきましたので、理学療法士の中でも、運動器と脳卒中についてはより専門的な知識と技術を持ち合わせていると考えております。そのため、私は短期的視点でみても御社のオープニングスタッフとして、長期的視点でみても施設の運営やスタッフ教育のシステム作りなどにも貢献できると考えております。

■職務経歴

医療法人○○会○○病院

従業員数：XXX人

病床数：計XXX床（うち一般XXX床）

正社員として勤務

| 期間  | 業務内容 |
| --- | --- |
| 20XX年X月~20XX年X月 | 【担当領域】・脳神経外科・脳神経内科・ICU・SCU・腎臓内科【職位】・一般職【業務内容】・患者様のリハビリテーション業務　平均X時間/週（入院患者様、外来患者様）・カルテ入力業務　平均X枚/日・その他書類業務・院内勉強会資料作成・学会資料作成・カンファレンス　平均X回/週・理学療法課年間勉強会企画と運営・学会発表や資料作成のサポート・実習生指導　X任指導経験あり【主な実績・取り組み】・第X回 ○○県理学療法士学会 発表（20XX年）・第X回 日本運動器理学療法学術集会の査読員・○○理学療法学術大会の査読員 |

| 期間  | 業務内容 |
| --- | --- |
| 20XX年X月~現在 | 回復期病棟【担当領域】・脳神経外科・脳神経内科・整形外科【職位】・一般職【業務内容】・患者様のリハビリテーション業務（入院患者様、外来患者様）・カルテ入力業務・その他書類業務・院内勉強会資料作成・学会資料作成・カンファレンス・理学療法課年間勉強会企画と運営・新職員症例報告会の企画と運営・病棟の転倒転落予防事業の企画・運営・学会発表のサポート・実習生指導【主な実績・取り組み】・第X回 日本脳卒中学会学術集会（20XX年）・第X回 日本神経理学療法学術大会（20XX年）・第X回 ○○県理学療法士学会 査読員(20XX年)・理学療法課勉強会の満足度80%以上を獲得・新職員症例報告会の職員満足度80%以上を獲得・理学療法課勉強会講師（研究デザインについて、ガイドラインに沿った脳卒中理学療法、装具療法） ・論文の共著者「○○　○○（論文名）」 |

■経験/スキル

・Word　書式設定、表の挿入、余白・サイズなどのページ設定が可能なレベル

・Excel　簡易グラフの作成、四則演算、CS分析とグラフ作成が可能なレベル

・PowerPoint　新規・既存資料の作成、プレゼンが可能なレベル

・SAS　簡単なプログラム言語を使用した統計解析

・R　EZRを使用した統計解析

■保有資格

・スポーツ理学療法認定理学療法士（20XX年）

・脳卒中認定理学療法士（20XX年）

■自己PR

　＜分析・問題解決能力＞

○○病院時代、研究や学会発表の経験を活かして、リハビリテーション部内の運営データなどを集計・統計解析し、分析することで、リハビリテーション部内の課題を抽出し、課題解決策を提案してきました。また、リハビリテーション部の収支と人事についても分析を行い、年間約XXXX万円の収支改善案を提出しました。現時点で実行はされていませんが、「再現性があるので数年後に取り組みたい」と人事部と経営部の方々から高い評価をいただいております。

＜人材教育＞

20XX年から約X年の間、○○病院では臨床教育担当という職位を担い、現場のリハビリスタッフの検査・治療から退院支援の 指導まで幅広い教育を行ってきました。また、教育事業の運営にも携わり、人材育成業務全般を運営しておりました。リハビリ職というのは、リハビリのプロですが、教育のプロではありません。そのため、教育に関する勉強会や研修会への参加、読書を通じた独学での勉強などを惜しまずに行い、部下に自ら成長意欲を持ってもらえ るような教育を実践してきました。また、教育は一人で行うことは出来ません。私が伝えるよりも他者が伝えた ほうが効果的であると判断した場合は、自分から発信することにこだわらずに、場面に応じて時に他者へ依頼することで、より高い教育効果を得てきました。

＜システム作り＞

医療の質を担保するためには、人材教育が重要ですが、高い水準の医療を誰しもが行えるようなシステム作りも 同じくらい重要です。私は、これまでの経験と知識を活かし「機能予後予測シートの作成」「初期評価項目を定型化したカルテ定型文の作成」「リハビリテーションプログラムの定型化」「退院支援の定型化」など、数々のリハビリ業務を一定水準以上の質を担保したまま、リハビリ業務を定型化することに成功しています。定型化業務についても、○○病院時代はかなり膨大な業務量でした。しかし、チームの編成を提案し、複数名の部下をマネジメントしながら作成に取り組み、メンバー全員の意見を建設的に取捨選択し、スムーズにシステム化を図ってきました。